

ボーイズリーグ

福嶋 聖知
横浜青葉ボーイズ

BOYS LEAGUE

日本少年野球連盟 ★★★★★★★

BEST LEAGUE
日本少年野球連盟★★★★★★★★

「笑顔MVP」は選手がグラウンドで見せた最高の表情を紹介しています。次回はキミかも?!

毎年年末にOB戦
笑顔で試合を楽しむOBの姿
が厚木市中三田の相模ボーグラ
専用グラウンドにあった。相模
・岩永一志監督(62)は、「年に
一度ですが、いつでも使える
の場所があるから毎年大勢来て
くれます」と好環境を強調した。
卒団生は毎年12月30日、中学時
代に汗を流した河川敷に集まり
旧交を温める。

18年夏以来全国へ

指導者と選手、保護者の距離が近い家族的なチームだが、練習は妥協も付度（そんたく）も一切ない。特に足腰強化にはこだわり、冬休み期間は連日、長距離走など徹底的な走り込みを選手に課す。現チームは部員31人。岩永監督は「体力がついてきたので、ようやく足がしつかり動くようになってきた」と手応えをつかんだ様子だ。

“あと一步”が続いている。2018年夏以来の全国大会出場を目指しているが、昨夏はB組代表決定戦で湘南に敗退。現チームは春季予選の準決勝で延長12回の末、平塚に競り負けた。前チームからクリーンアップに

ともに81年加盟

ともに81年加盟

打倒・湘南で6年ぶり全国へ

横浜青葉祭

ラーから一気に崩れた。投手も感情を抑えられず、ミスを力バーできなかつた」反省を生かすつもりだ。主将のMAX130キロ腕・津島は「相手の気持ちを考えた行動を心掛けたい。試合では相手を楽にさせる声掛けをします。自分から変えていく」と力を込めた。投手陣は津島と身長184センチ右腕・三宿が一枚看板。右は塙崎・福嶋、山崎、左は塙本とそろい、緩急が武器の女子左腕・山田彩もワンポイントで起用する。三宿は「課題は勝負所での一球。追い込んでからの決め球をコースに決め、スキのない投手になりたい」と飛躍を誓つた。

捕手では一年生の林が急成長し、レギュラーの山田政を脅かす。林は準々決勝で座間に敗れた昨秋の春季全国大会予選を振り返り「守りで消極的なプレーが多かった。今年の目標は、投手へ声を掛けたり、ショートバウンドをしつかり止める『やるべき事』をしつかりやって信頼される捕手になること」とキッパリ。6年ぶりの全国切符は選手たちの自覚かかっているようだ。

チーム一丸で4年ぶりの夏季全国大会出場を目指す相模ボニーズ

主砲・永野に続く全体の底上げで昨夏のリベンジだ

座る主砲の永野は（平塚戦は）ピッチャ―はよく粘ったのに、エラーで負けた。打線もあと一本が出なかつた」と悔しがる。レギュラーが約束されているのは2番・捕手の永野だけ。この冬は「全体の底上げ」（岩永監督）に取り組んだ。強化ポイントの一遊間は「墨が露木と伊藤、遊撃は大橋と1年生の秋山が争う。身長155㌢の秋山は「エラーをしても先輩は『次は頑張れ』と励ましてくれる。体を大きくして、自分もチームを引っ張る選手になりたい」と決意を口にした。

「い」とお意を「いにした」

のきっかけ
れる春に毎年、関東
ームが出場する大きな
地域やマスコミにア
とを考えました。そ
央)、東北は02年に仙台がそれぞれ
初加盟。さらに各地でチームは増
え続け、07年開催の第10回大会の
出場チーム数は、中学生の部だけ
で110を超えていた。大会の成功が
本部に評価され、2010年には「第40
回春季全国大会」が東京を中心と
メットライフドームを選手と関係
者が埋め尽くす関東ボーイズリー
グ大会の開会式



全チーム参加関東ボーイズリーグ大会がチーム増のきっかけ

1970年、大阪で誕生したボーイズリーグ(公益財団法人日本少年野球連盟)は爆発的に広まった関西に比べ、先にリトルリーグが誕生したが、開会式は1998年開催の第1回以来、メットライフドーム(埼玉・所沢市)で行われてきた。入場行進を終えた今出場チームがアリーナに向かうと、観客席から大きな歓声があがる。この大会で、関東の全加盟チームが出場する大きな大会を行ない、地域やマスコミによる報道が盛んになる。この大会は、毎年春に開催される「関東春季少年野球大会」として親しまれてきた。

メットライフドームを選手と関係者が埋め尽くす関東ボーアイズリーグ大会の開会式

◆体験練習会(中)
大洋▽22日9
中居グラウンド
立川▽23日8
間市野田元加治
戸川ライン野球
浦安▽23、30
ンド